

公共プロジェクト提案書（令和7年度予算事業）

令和 6 年 月 日

美瑛町長 角和 浩幸 様

提案者 住 所

氏 名

連絡先

みんなのまちづくり施策（公共プロジェクト部門）について、次のとおり関係書類を添えて提案します。

1 事業の名称							
2 美瑛町共有ビジョンとの関連性	<p>提案する事業は、どの「美瑛町共有ビジョン」を実現するものですか（複数選択可能）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>豊かな美しい景観が、農業と観光の架け橋となるまち</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>誰もが自分の可能性をのばせるまち</p> <p><input type="checkbox"/>誰もが健康で共に支え合い、安心して住み続けられるまち</p> <p><input type="checkbox"/>ライフラインが確保され、災害にまけない強さとしなやかさを備えるまち</p> <p><input type="checkbox"/>豊かな自然と共生し、持続可能な循環型社会を目指すまち</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの個性を育み、全力で応援するまち</p> <p><input type="checkbox"/>すべての人に居場所と役割があり、希望を持って笑顔で暮らせるまち</p>						
3 地域の課題／事業の目的	<p>① どのような課題を解決する事業か、日々の困りごとの具体例やエピソードを交え記入してください</p> <p>ビエンナーレ（トリエンナーレ）を行い、町内の芸術家（陶芸、写真、音楽、協力隊、または道外でも可。に作品をつくってもらおう。廃墟や使われていない店舗など、改築や金銭面などに時間を要しているように見える。空き家などは放置されているようにも見える。その改善策のひとつ。作品はテーマを決め「農業の歴史びえい」のようなものにしたとして、農業と、景観から生まれる芸術性創造性から作品を生み出し展示公開したい。できれば全作品をバスツアーでまわり、バスガイドのような役割のひとが、全ての作品を説明する。バスツアー開催時は町内マルシェを用い（旬の食材が時期的には厳しいかもしれないが）美瑛の深みをしたあとに昼食、お土産までとことん美瑛に浸れるというツアー。</p> <p>② 上記が「美瑛町の地域課題」であると感じられる理由は何ですか？</p> <p>“美しい景観”に反した部分が増えていくことが懸念される。</p>						
4 事業の内容（事業の対象者、実施期間、実施場所などできるだけ詳細に記入してください。）	<p>① 事業の対象者（どこに住む、どんな世代の、誰に向けた事業ですか？）</p> <p>町内外に関わらず、芸術の関心がある人。農業景観に関わらず、美瑛の景色に興味があるひと。</p> <p>② 実施する場所</p> <p>空き家、空き店舗、使われていない場所、なんでも。観光客が多く集まる場所は外せばベスト)</p> <p>③ 実施期間</p> <p>観光客が集まらないような時期が良いかも。3～4月など？</p> <p>④ 課題の解決に向けて、どのような役割や協力体制が考えられますか？</p> <table border="1"> <tr> <td><行政></td> <td><町民></td> <td><その他></td> </tr> <tr> <td>金銭面。その場所の持ち主への説明と理解。</td> <td>一定の期間場所を提供する協力体制。見返り（投げ銭箱のようなものを置くか）</td> <td>できれば駅前などからバスツアーを組んで、自身の足でその場所まで行かなくてもいいような仕組みづくりがあると良い。</td> </tr> </table>	<行政>	<町民>	<その他>	金銭面。その場所の持ち主への説明と理解。	一定の期間場所を提供する協力体制。見返り（投げ銭箱のようなものを置くか）	できれば駅前などからバスツアーを組んで、自身の足でその場所まで行かなくてもいいような仕組みづくりがあると良い。
<行政>	<町民>	<その他>					
金銭面。その場所の持ち主への説明と理解。	一定の期間場所を提供する協力体制。見返り（投げ銭箱のようなものを置くか）	できれば駅前などからバスツアーを組んで、自身の足でその場所まで行かなくてもいいような仕組みづくりがあると良い。					

5 事業の効果・ 将来像	事業の実施によって、まちがどのように変化するか、どんな未来につながるのかを教えてください。 池や丘だけではない、美瑛のあるべき姿から想像をめぐらすことで 深い理解と興味関心が高まるきっかけとなる。
--------------------	--

※補足資料（収支予算書、写真、他自治体の事例、パンフレットなど）があれば添付してください。

中之条ビエンナーレ
NAKANOJO BIENNALE 2025 

The 10th International Contemporary Art Festival in Nakanajo
<https://nakanajo-biennale.com>
 2025.9.13(sat)-10.13(mon) 9:30-17:00



中之条ビエンナーレ2025開催概要
 開催期間：2025年9月13日(土)～10月13日(月・祝)の31日間 無休
 展示会場：群馬県中之条町 町内各所 / 一般有料/バス所要 高校生以下 鑑賞無料
 温泉街や木造校舎など町内各所で多彩なアートの展示、音楽、パフォーマンス、マルシェなどを開催
 お問い合わせ：中之条ビエンナーレ事務局 〒377-0432 群馬県吾妻郡中之条町大字五反田3534-4
 TEL 0279-75-3320 (受付時間 平日9:30-17:00) / office@nakanajo-biennale.com
 主催：中之条町 / 中之条ビエンナーレ実行委員会 / 中之条ビエンナーレ運営委員会
 総合ディレクター：山崎龍光 発祥作品：湯野頼子 写真：森井文仁

参加アーティスト募集スタート!!
 2024年7月15日(月)〆切
 募集内容の詳細は公式ウェブサイトをご確認ください。
<https://nakanajo-biennale.com>

ECHIGO-TSUMARI ART TRIENNALE 2024

大地の9th 芸術祭

えちごつまり 越後妻有アートトリエンナーレ2024

2024.7.13-11.10
 火・水定休 Closed on Tue & Wed




大貫仁美「かつては少年であり、少女だった」
 (撮影者) Kazuyuki Miyamoto

中之条ビエンナーレ
NAKANOJO BIENNALE 2023 

2023.9.9 (sat) - 10.9 (mon) 9:30-17:00 会期中無休
 Contemporary Art Exhibition in Nakanajo | Official website <https://nakanajo-biennale.com>

ECHIGO-TSUMARI ART FIELD 2022

大地の芸術祭

えちごつまり 越後妻有2022

2022.4.29.FRI-11.13.SUN

会場：越後妻有地域(新潟県十日町市、津波町)7600m²
 主催：大地の芸術祭実行委員会 共催：NPO法人越後妻有観光協会
 Venue: Echigo-Tsumari Region 760 square kilometers(Niigata City-Tsunan Town, Agulpa Prefecture)
 Organizer: Echigo-Tsumari Art Triennale Executive Committee
 Co-organizer: Echigo-Tsumari Region Exhibition Association
www.echigo-tsumari.jp

大地の芸術祭は旅とアートの祭りです



観光・交流

なかのじょう

群馬県中之条町「中之条ビエンナーレ」

アートと山里の融合による地域活性化
アーティストと現場職員で構成された実行委員会で開催する
アートフェスティバルで、アートの発信と地域活性化を両立

映画「眠る男」「月とキヤベツ」のロケ地として有名な中之条町。ひっそりとしたこの山里の町は、2年に1度、大きな盛り上がりを見せる。夏から秋にかけて開催される「中之条ビエンナーレ」は、この静かな町に滞在しながら作品制作に打ち込んでいたアーティスト6名の発意で始まった。このアートフェスティバルでは、廃校や古民家、倉庫、温泉などを会場として、アーティストが、美術館の展示スペースでは制作できない作品に挑戦するが、これに町の住民や商業者が協力することで、地域活性化につながっている。

また、町内にできた交流施設では、アーティストだけでなく、子どもや若者を含む住民が、いきいきと活躍する姿が見られる。過疎に陥む町は、アートと山里の融合により、これまでにない新しい経済成長をとげようとしている。この融合を実現した秘訣とは？そして町が目指す新しい経済成長の姿とは？

出典)中之条町資料



◆取り組み概要

●取り組みの目的

中之条町でアートフェスティバルを開催することで、アーティストが作品を披露する機会を持つとともに、土地に根ざした作品を制作し展示することで、地域の魅力発信にもつなげる。

●取り組みの内容

- ・中之条ビエンナーレの開催
 - ・中之条町ふるさと交流センター「つむじ」を拠点としたクリエイティブシティへの取り組み
- 取り組み主体(中之条ビエンナーレについて)※2010年度現在
- ・中之条ビエンナーレ実行委員会
 - ・中之条町役場

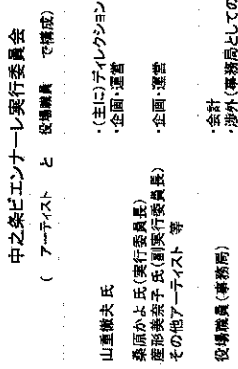
《観光・交流》

なかのじょう

群馬県中之条町「中之条ビエンナーレ」



◆取り組み体制◆



◆取り組みのポイント◆

1. アーティストが町の魅力にふれるきっかけづくり
会場選定と作品の制作過程において、参加アーティストが町の魅力を知り、町民との親睦を深めることのできる「まりげない仕掛け」をすることで、町の魅力がアートと融合して発信されている。
2. 地場産業との連携による地域活性化
中之条ビエンナーレにおける来場者が、町の飲食店や温泉街を利用するよう、クーポン券の発行やHPでの温泉施設の情報発信を行うことで、地域活性化につなげている。
3. 実行委員会における官民でのメンバー構成
実行委員会のメンバーを、アーティストを中心として役職員を加えることで、アーティストの考えを尊重した働きかけと、町民や地場産業との連携を、可能としている。

取り組みによる成果

- ・2007年で延べ4万8,000人、2009年で延べ16万6,000人の中之条ビエンナーレ来場者の獲得
- ・中之条ビエンナーレにおいて住民ボランティアの主体的な参画が図られた
- ・「つむじ」の「町民メーカー」の誕生
- ・アーティスト等9名の町への移住

今後の展望

- ・「中之条ビエンナーレ 2011」に向けた、実行委員会を含む体制強化、参加アーティスト・ボランティアへの手当ての拡充
- ・協力者だった住民との関わりを深め、パートナーとしてアートのまちづくりに取り組み
- ・アーティスト等の移住を促進し、「クリエイティブシティ」を目指す

中之条町の概況

人口減少、高齢化が著しい

中之条町は、群馬県の北西部に位置する山間地域で、8割以上を森林が占める盆地状の地形となっている。2010年には、六ヶ野を編入した。

2005年の国勢調査によると、人口総数19,398人、一般世帯数6,765世帯。1980年からの人口推移を見ると、群馬県が増加しているのに対し、中之条町は減少している。高齢化率は30.0%と、群馬県や全国に比べて高くなっている。

温泉・自然を拠点とした観光業が盛ん

産業別の就業者数の割合を見ると、第1次産業が12.7%と、群馬県や全国と比べて高くなっている。農業では、米・こんにゃく・野菜・果樹など、様々な農産物を生産している。このほか、製菓郡一円を圏域とする同業、電気機器製造業、観光業が、中之条町の主要産業となっている。

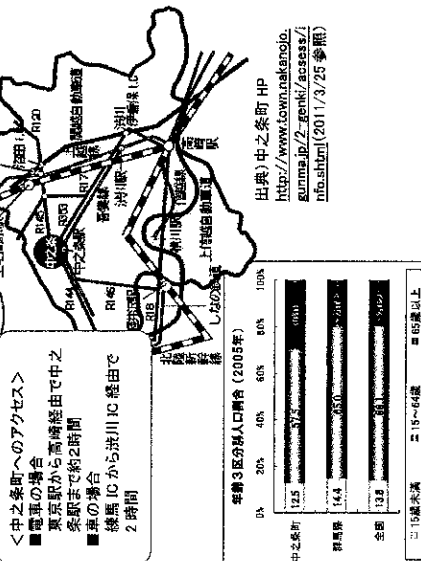
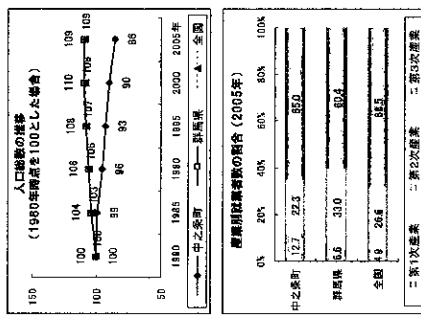
観光業では、西方・沢渡・岩間などの温泉と野沢湖などの自然を拠点としている。そのほか、台向庵薬師堂や雷沢家住宅、栗谷窟、重要伝統的建造物群保存地区の猿岩地区といった文化的にも、歴史資源として残されている。

取り組みに至る経緯

吾妻美学校の設立

1995年、群馬県の人口が200万人を突破したことを記念して制作された、映画「眠る男」。そのメインロケ地に選ばれたのが中之条町である。この時の監督、小栗康平氏の友人である日本画家草野礼二氏が、1998年に中之条町に開校したのが、「吾妻美学校」である。吾妻美学校では、多摩美術大学の卒業生を中心に、2年間を1期として、平松氏による指導や作品制作に没頭できる開かれた場を提供していた。また、町民との交流を深めるため、祭りに生徒が参加したり、町民を対象とした平松氏による講座も開催された。しかし、その生徒数は年々減少していき、1998年に17名だったのが、2006年(5期生)には6名となっていた。

吾妻美学校では、終了時に2年間の藝大成として、東京の銀座での共同展覧を開催していた。しかし、この6名の5期生は、中之条町で制作した作品を東京で展示することに疑問を感じていた。町への恩返しのためにも、町内で作品を発表し、町民に見てもらいたい。



しかし、約2万人の町民に発表するには6名の作品では足りない。それなら規模を大きくしてアートフェスティバルを開催しよう。これが「中之条ビエンナーレ」の始まりである。

「越後妻有アートトリエンナーレ」との出会い

彼らが構想したアートフェスティバルとは、都市や地域の空間全体を大きな美術館としてアート作品を展示するものである。現在、国内の様々な地域で同様の催しが開催されているが、イタリア・ベネチアの国際展の知名度が高いことから、アートフェスティバルを開催している大半の地域ではイタリア語の「トリエンナーレ」(2年に1度開催)、「トリエンナーレ」(3年に1度開催)を名称に用いている。

これを中之条町で開催するには、町の協力が不可欠であった。そこで、5期生は役場を訪れ、中之条町でのアートフェスティバル開催を提案した。その際に、国内での事例として彼らがとりあげたのが「越後妻有アートトリエンナーレ」である。これは、2000年より、越後妻有地域(新潟県十日町市、津軽町)で開催されているアートフェスティバルで、田畑・民家・廃校などに、約200点に及びアート作品を展示するもの。アートを活



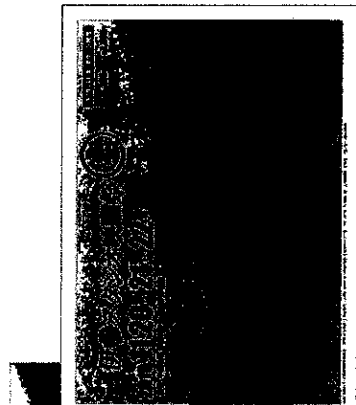
↑役所広司主演映画「眠る男」の撮影拠点となった「伊藤スチジオ」。中学校の廃校舎を改装して使用された。これがきっかけとなり、1995年には、山崎まさよし主演映画「月とキヤベツ」の撮影拠点にもなった。

用して地域の魅力を発信し活性化を目指すこの取り組みは、毎回多くの来場者を集めている。

これをやりたいという5期生に対し、「百圓は一見にしかず」ということで、[※]内閣府副総長、役場職員、5期生で、「越後妻有アートトリエンナーレ」の視察を行った。この時の感想を入内嶋町長は次のように語っている。「アート作品と田舎の風景が互いを際立たせていた。これと同じ事ができるなら是非やってみようと思います。」こうして、中之条町でのアートフェスティバルの開催に向け、6名のアーティストと役場の協議が始まった。

アーティストによる実行委員会の設立

早速、2007年4月に6名の5期生(山重鶴夫氏、岩田真美氏、窪形美奈子氏、八幡翠子氏、武蔵謙子氏、上田圭一氏)が中心となって「中之条ビエンナーレ実行委員会」(以下、「実行委員会」)を設立。一方、町は、2007年度の補助事業として320万円を予算計上し、開催を正式決定した。「ビエンナーレ」にしたのは、熱が冷めないうちに次を開催することで、継続する気持ちをもつためであった。



↑2001年より始まった「伊藤スチジオ映画祭」の様子。現在、「中之条ビエンナーレ」にも、町のまちづくりの両輪となっている。中之条町のアートのまちづくりは、映画「眠る男」から始まったと言えるだろう。

この時すでに9月の開催まで残り半年を切っていたが、アートディレクション^{※1}や参加アーティストの確保を担う実行委員会と、受付の住民ボランティアの確保やトップセールスでの情報発信を担う中之条町の連携により準備を進め、2007年9~10月に、「中之条ビエンナーレ2007」を開催した。58名のアーティストが参加し、廃校や古民家、地域の集会所、元酒蔵など、地域の未使用施設11箇所を会場として作品を展示、入場無料で開催された。また、アーティストによるワークショップや小作品の販売、住民による講演・おやきの販売も行われた。

2年後の2009年には、実行委員会は、町や県などから650万円の補助金を受け、企画・運営内容を充実。具体的には、多種多様なアート作品を展示するため参加アーティストを公募、また、地域活性化に向け、商店街と温泉地に展示場所を拡大した。さらに、来場者の利便性の向上を図るため、ガイドブックを制作・販売、バスツアーも実施した。結果、参加アーティスト112名を確保、29箇所の会場で、「中之条ビエンナーレ2009」を開催、第1回を上回る来場者数を記録した。



↑「中之条ビエンナーレ2007」の様子。当初2008年開催の嵐もあつたが、5期生達の「熱は冷いうちに打て」という思いで2007年開催にかきつけた。この熱意に応えて、後継職員も深夜まで看板設置にかかるといった。

現在の取り組み

現在、中之条町では、「中之条ビエンナーレ2011」に向けた準備が進められている。これまで、アートディレクションは、実行委員会が務めてきたが、2011年は、実行委員会の中でも中心となってディレクションを行っていった山重氏が総合ディレクターという位置づけとなり、実行委員会・総合ディレクター・中之条町で連携し、アーティストの参加と住民を中心としたボランティアの協力を挙げて開催する。実行委員会に対しは町から補助金を交付、総合ディレクターの山重氏には実行委員会がアートディレクションを委託する予定である。

*1 コンセプトにもとづいて企画・立案し、準備から開催に至るまで指揮・監督すること



↑「中之条ビエンナーレ2008」の様子。2007年の開催では、町全体に周知することはできなかったが、2008年の開催時には、高砂番でも「ビエンナーレ」という横文字を知っているほど周知が進んだという。

「中之条ビエンナーレ 2011」の準備・開催

「中之条ビエンナーレ 2011」は 2011 年 8 月 20 日～10 月 2 日の日程で、これまでと同様に入場無料で、作品展示・ワークショップ・小作品の販売が行われる。

開催準備は 2010 年 4 月より開始。まず、実行委員会が作品を展示する候補地を選定。次に、参加アーティストを募集し、ポートフォリオ等で選考する。これを通過したアーティストに対し、会場の下見・説明を行い、作品の展示希望場所を提出してもらう。その後、実行委員会で展示場所の調整を行い、その結果を 10～12 月に各アーティストに連絡、それを承諾した時点で正式な参加決定となる。アーティストに対しては、滞在制作や会期中の宿泊の場として、旧キャンプ場を無料開放。但し、作品制作・搬入費用、交通費、滞在中の食費は原則、すべて自己負担となっている。

「アートのもちづくり拠点「つむじ」の運営

2010 年度からは、中之条町をアートの町にするため、ビエンナーレ以外にもアート事業を展開している。その拠点となっているのが、2010 年 7 月にオープンした、町営の中之条町ふるさと交流センター「つむじ」である(総事業費 3 億 5,000 万円。まちづくり交付金を活用)。町は、ここをクリエイティブなまままちづくりの拠点とするため、山重氏にプロデュースを委託、実行委員会のメンバーが町の囃子職員となって「つむじ」の運営を担っている。

この「つむじ」を拠点として、ビエンナーレを小規模にした「温泉郷美術祭」、ライブやパフォーマンス、アーティストによるワークショップといったイベント等を展開。また、「つむじ」では、「ニッポンのものづくり」を考えた場所をコンセプトとして、町民が制作した生活雑貨・伝統工芸品・地産品、アーティストが制作した雑貨、地元食料を活用した飲食物等を販売している。

←「中之条ビエンナーレ 2011」のチラシ

参加アーティストへの会場の下見・説明は、開催前年度の夏に実施された。季節によって、景観の見え方が全く異なるため、本書に近い環境を見せるためである。

出典) 中之条町資料



↑「つむじ」

S 字型の建物の中には、アーティストが手がけるおしゃやれなカフェやショップなどがある。町民が制作した商品や町の飲食店のテナントも混在し、アーティストと町民がともに活躍する場所となっている。

出典)「つむじ」HP <http://tsur-mu-jicomm/wp/> (2011/3/25 参照)

取り組みのポイント

アーティストが町の魅力に触れる

きっかけづくり

中之条ビエンナーレでは、ただ町内にアート作品を展示するのではなく、アートを通じて町の魅力を引き出されるよう、会場選定や作品の制作過程において、工夫がなされている。

作品を展示する会場選定にあたっては、実行委員会、中心街である商店街、山里の美しい景色を楽しめる麓山、郷土文化の歴史資源が残る養生地区、温泉地といった、町の歴史の足跡や面影の残る地区を候補地に選んでいる。しかし、候補地の中に参加アーティストが希望する場所がなかった場合には、アーティストからの会場の提案も受け付けている。この理由として、山重氏は、「作

家(アーティスト)はアンテナのようなもの。普通の人が見落としてしまうようなものも拾って見せてくれる。だから、ある程度は作家に任せたいです。」

また、作品の制作にあたっては、参加アーティストに滞在制作を勧めている。町に滞在して、町民と交流し、土地の文化や歴史を感じながら、制作にあたってもらうのがねらいである。とはいえ、町が行っているのは宿泊施設の無料開放のみである。アーティスト達は、それぞれのペースで、町民と親睦を深めて土地に溶け込み、その場所と向き合いながら制作にあたる。

このように、町の魅力に触れる「きっかけづくり」に徹し、アート作品の制作に関してはアーティストに委ねることで、町の魅力がアートと融合し発信されているのである。

中之条ビエンナーレ 実行委員会 / つむじショップ担当 産形真菜子 氏



「場所と向き合いながら制作して欲しい」

Q. 中之条ビエンナーレが、アートと町の魅力の発信になるよう、考えていることはありますか？

作品自体がまず良くなくはないけれど考えています。「良い作品」というても色々な考え方があっていいと思うんですが、この場所ですら作れない、見られない作品が良いと考えていますし、ここでやる意味もそこにあると思います。参加アーティストにもそれを大事にして欲しいので、選考の段階では、それを念頭に置いています。また、滞在制作を勧めたいのも、会場となる場所を見て、この場所とのつながりを考えてもらいたいながら制作して欲しいからです。作家が場所と向き合っていて、ここでしかできない作品をつくってくれば、必ず場所の魅力が発信につながると考えています。

Q. 産形さんにとって中之条の魅力は何ですか？

何が触れられない魅力があるんですよね。町も自然も、規模がちやうどいいのかもしれない。自分がやっていると、すくく実感があります。それは、私達の取り組みに対する反応を感じられたり、住民のみさんから支援による一体感があるからだと思います。「よそ者」だからこそ、自分の存在を感じられるということもあるでしょうね。

Point アーティストの育成

中之条ビエンナーレでは、アートを通じて地域振興を図るだけでなく、芸術文化の薫染の一環として、アーティストの育成にも取り組んでいる。

アーティストが個展を開く場合、会場費や宣伝費などはすべて自己負担となるため、彼らにとってもビエンナーレは、比較的安価で自分の作品を披露できる機会となっている。しかし、中之条ビエンナーレでは、それだけでなく、アーティストの育成につながるような取り組みを行っている。例えば、ギャラリーや画廊へのPRを行い、スタッフの誘客を図っている。スタッフの目にとまれば、ギャラリーや画廊での展示につながるが、世に出るきっかけになる。また、2011年では、ギャラリー関係者を実行委員会が直接招待し、キュレーターなどが作品にふれる機会を確実にする動きもとる。さらに、「つむじ」で、アーティストの制作する生活雑貨を販売しているのは、彼らの収入の一助とするというねらいもある。

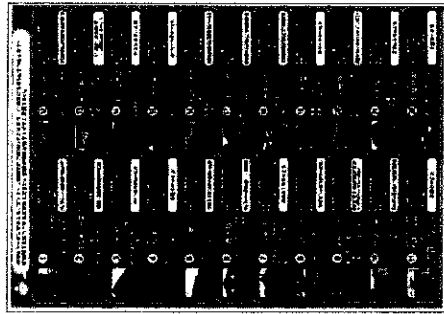
入内島町長は、「町がアーティストに一方的に力を貸してもらいだけでなく、我々もできることをしつつ、彼らが世に出るようになる仕組みができればと思う。」と語っており、今後アーティスト育成に関する施策を拡充することを検討している。町のこうした姿勢が、アーティストとの信頼関係を構築する一つのポイントと言えるだろう。

地域産業との連携による地域活性化

中之条ビエンナーレでは、町の魅力発信だけでなく地域活性化につながるよう、地域産業との連携も行われている。

町の大きな観光資源となっているのが温泉である。そこで、「美術十故郷温泉」をコンセプトとして、温泉街との連携を積極的に行っている。作品を展示する会場に、露天風呂や足湯を設けるほか、会場が町内の広範囲にわたっていることを活かして、来場者に対し泊まりがけで来場することを勧めており、中之条ビエンナーレのHPでは温泉協会等へのリンクをはっている。また、2007年、2009年ともに、発行するガイドブックの裏表紙をスタンプラリーにして、各会場のスタンプを集めた人には、温泉旅館の宿泊割引券や無料券、日帰り入浴券がプレゼントされた。さらに、ガイドブックには、町内の飲食店舗の地図とクーポン券を掲載した。

このように、来場者が町の飲食店や温泉施設を利用するよう工夫されている。



↑「中之条ビエンナーレ2009」のガイドブック裏表紙がスタンプラリーとなっている(左)。スタンプは、会場毎に違っており、そのかわいらしいデザインも来場者に好評だった。ガイドブックの中には、飲食店のクーポンが掲載されている(右)。ドリンクサービスや割引など、店舗毎にサービスを受けられる。

出典)中之条町資料

実行委員会における官民でのメンバー構成

アーティストの考えを尊重しながら町の魅力に触れるきっかけをつくり、地域産業との連携を図る。これを可能としているのが、実行委員会のメンバー構成である。中心メンバーはアーティストだが、これに事務局として役員職員も加わっている。

中之条ビエンナーレで山重氏が重視しているのは「アーティスト主導」という考えだ。ビエンナーレのそもそもの目的は、アーティストに楽しんで作品を制作し展示してもらうかという点。これを重んじながらも、町の魅力発信につながるさびげない仕掛けができるのは、実行委員会の中心メンバーがアーティストだからこそである。

また、会場選定にあたっての土地や施設の所有者との交渉、住民ボランティア等の確保、温泉協会との連携を担っているのが、実行委員会事務局の役員職員である。彼らがいるからこそ、中之条ビエンナーレと町に繋がりができている。

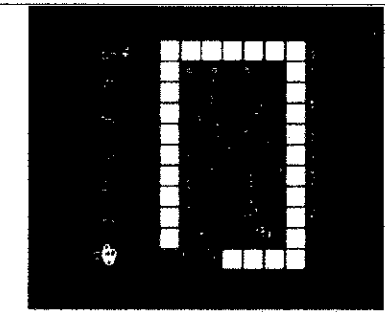
こうした官民のメンバー構成により、町に根ざしたアートフェスティバルを実現しているのである。

Point アーティストが手がける情報発信とは？

中之条ビエンナーレや「つむじ」を拠点とする取り組みにおける情報発信は、主に山重氏が手がけており、そこには、アーティストならではの工夫が凝らされている。例えば、ビエンナーレHPでは、普段アトに触れていない人にも興味を持って見てもらえるように、ビジュアル面を重視して画像を多用している。また、対外的な印刷物はブランド価値に大きく影響するとして、中之条ビエンナーレで作成されるガイドブックやチラシは、デザイン性の高いものになっている。これらのデザインは、山重氏が行っている。

発信方法についても、現在「つむじ」で行われているイベントやウォーマーズはストーリーミング配信しており、海外で見ている人もいいるという。今後は、これだけでなく、雑誌等へ広告を掲載することで、これまでパブリシティ(マスコミに積極的に情報公開することで、報道されるよう働きかけること)に頼っていた発信方法も充実していくという。

このように、「魅せる」プロならではの、コンテンツ作成と発信方法における工夫が行われている。



↑「中之条ビエンナーレ」HP(左)と2009年のチラシ・ガイドブック(右)HPでは、トップページ、イベント情報、作品紹介などのページで、画像がふんだんに使用されている。ガイドブックでは、会場の概観の写真はすべてモクロロになっている。形を見せるために、色彩の情報を取り除いたのだという。これもアーティストならではのこだわりである。

出典)「中之条ビエンナーレ」HP <http://www.bi-hu.com/nakanojo/index.html>(2011/9/25参照)、中之条町資料

取り組みの成果

来場者による経済効果、住民の変化

中之条ピエンナーレは、2007年は延べ4万8,000人、2009年は延べ16万6,000人の来場者数を記録した。また、町では、もたらした経済効果を、2007年で3,000万円、2009年では2億2,000万円と推計している。

また、中之条ピエンナーレの開催を通じて町の魅力を発見したのは町外からの来場者だけではなく、

中之条ピエンナーレには、多くの町民も訪れた。町民からは、多くの来場者が町を訪れたことを喜ぶ声のほか、自分達もアーティストによって町の魅力を再発見できた、自分達も知らなかった町のおもしろい場所に行くことができた、隣校や空き店舗などが会場になって懐かしい等の声が聞かれた。これも、アーティストが、町にインスピレーションを受けながら作品を制作したからその成果といえる。

町民もアートのまちづくりの担い手に

中之条ピエンナーレでは、2007年は、11箇所の会場に300名の受付、2009年は、29箇所の会場に1,082名の受付が配置された。これを担当するのが、老人会や婦人会などの住民ボランティアで、当初の役割は、作品の監視とスタンプラリーの受付となっていた。しかし実際には、住民ボランティアの発意で、会場の案内や飲食の販売などのおもてなしが行われた。例えば、笑道地区では、「手作り市」として、漬け物やおやきなどを販売。得られた収益をボランティアで配分し、余った分を活用して地域づくりの視察にも出かけた。望字町では、飲み物の販売を行うほか、住

民が作品を展示する小規模のアートフェスティバルも開催された。

さらに、「つむじ」には、雑貨ショップの利用やワーショップへの参加をきっかけに、自分の制作する雑貨や伝統工芸品（竹細工、草木染めなど）を商品として持ち込む町民が現れている。山重氏が「町民メーカー」と呼び彼らは現在30名おり、中には「つむじ」への商品の出荷が生活の楽しみになっている町民もいるという。

アーティストの発意で会場との連携により始まったアートのまちづくりに対し、住民も重要な担い手として参画しつつある。



中之条ピエンナーレ
住民ボランティア
新木利一氏

「ピエンナーレを地元で盛り上げよう」

Q. 中之条ピエンナーレでは、住民ボランティアとして、どのように協力されましたか？

ピエンナーレを地元で盛り上げようと、町の祭りを担っている住民を中心にボランティアをしました。私の地区では、若者も参加してくれて、来場者の誘導や飲食の販売をしました。地元の人が笑顔で対応することで、来場者は良い町だと思ってくれたらと思うので、そうしたい思いでお手伝いしました。

Q. 今後も、住民ボランティアとして協力していきたいと思われませんか？

中之条ピエンナーレが開催されることで、町内が多くの人でにぎわうのが嬉しいです。外の人に自分達の土地を見てもらえて嬉しかったですし、私も普段は素通りしていた場所が会場になることで行くことができて楽しかったです。ピエンナーレは、単発ではないですから、来場者には満足していただき、また2年後に来て欲しいですね。2007年から2009年にむけて規模も拡大していますし、今後もボランティアとして協力したいと思っています。



中之条ピエンナーレ
住民ボランティア
由利仁子氏

「作品を見て、エネルギーにボランティアとして参加してみてもいいか？」

Q. 中之条ピエンナーレにボランティアとして参加してみてもいいか？

婦人会の支那のメンバーで地元会場のお手伝いをしました。ボランティアをしていて、来場者との交流も楽しく、アーティストの方も気持ちのよい方が多くて面白かったです。アート作品は、感動するものもあれば、ざっとするものもあって、表現力は様々だと感じましたが、非日常を味わえて、エネルギーを分けてもらえた気がします。

Q. アートのまちづくりに、今後期待することを教えてください。

あまり関係ないかもしれませんが、今は、子どもが少ないので、若い世代が増えてくれたらいいなあと思います。今、移住するアーティストが出てきているのは、いいことではないでしょうか。ここに住んで制作するのなら、その作品を見せて欲しい交流したいですね。ピエンナーレは2年に1回ですが、住民としては、いつでも気軽にアートを楽しめる場所があってもいいかなと思います。

今後の展望

組織としての取り組み体制の構築

6名のアーティストから始まった中之条町のアーティストのまちづくりは、その規模が拡大する中で、組織としての取り組み体制の構築が必要となっている。

「中之条ビエンナーレ2011」の開催に向けて、実行委員会をきむ体制強化や参加アーティストへの手当ての拡充、新たなボランティアの確保とそれに対する手当てが検討されている。

体制強化に向けては、実行委員会・総合ディレクター・中之条町の3主体による連携体制を構築する。これは、各主体の位置づけと役割を明確にすることで、それぞれの役割に専念できるようにすることをねらいとしている。

「アーティストが住む町」中之条町へ

山重氏と、中之条町の嘱託職員となって「つむじ」の運営を担っている実行委員会の数名は、町に生業ができたことで東京都や神奈川県などから町へ移住した。このほか、中之条ビエンナーレに参加したアーティストの中にも、町に移住する者が出てきている。こうして現在、9名のアーティスト等が町内に住んでいる。

また、中之条ビエンナーレをきっかけに、群馬県の地方新聞である『**上毛新聞**』で、中之条町が「作家が移住する町」として取り上げられたことで、アーティスト等から移住したいという問い合わせが寄せられている。「つむじ」においても、「つむじ」内やその周辺で、ショップやブティックを開きたいという問い合わせが来ているという。

ヒトやモノが出会い、つながり、そこから何か新しいものが生まれる、それを伝えていくことで、また新たな出会いが生まれる。これは山重氏が描いているビジョンであるが、中之条ビエンナーレや「つむじ」が、この出会いの「場」となったことで、また新たな出会いが生まれようとしている。

また、これまで宿泊費以外はすべて自己負担してきた参加アーティストへの手当てを拡充するとともに、大学生を含む新たなボランティアを確保し、日当や交通宿泊費を手当てする予定となっている。

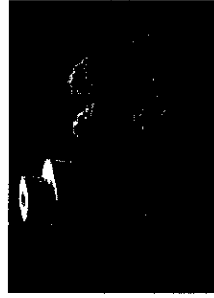
現在は、町や県などの補助金、個人・企業の協賛金が主な収入源となっているため、収益の獲得に向け、「中之条ビエンナーレ2011」のパンフレットの内容を2009年より充実して販売、また2007年、2009年のアート作品を図録にして販売する。収益獲得に向けては、入場料を有料にする案も検討されたが、住民もきめアートの興味の深い人にも参加してもらえよう、無料を継続することにした。

アーティストと住民の協働によるまちづくり
実行委員会・総合ディレクター・中之条町は、今後、アートのまちづくりに対する住民の関わりを深くしていきたいと考えている。

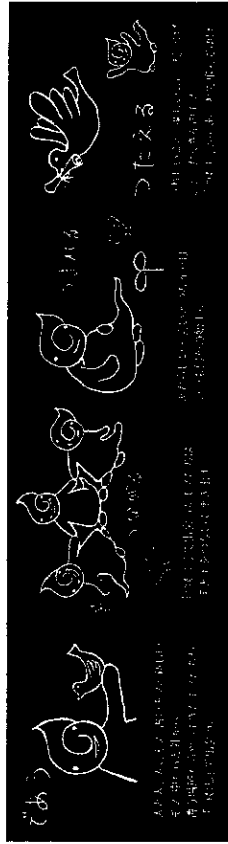
2007年、2009年の中之条ビエンナーレでは、住民ボランティアの依頼・調整を、役場が担っていた。「中之条ビエンナーレ2011」では、参加アーティスト・実行委員会メンバーと、住民の交流を図ることで、中之条ビエンナーレと住民の関係を深め、住民ボランティアからの企画提案も受け付けて運営に活かしていく。

「つむじ」においては、30名の「町民メーカー」が制作する商品のブランド化に取り組み、「町民メーカー」が制作した伝統工芸品などを「つむじ」が一度買い取り、商品がもつストーリー性をPRデザインを加えてリパッケージすることで、ブランドアップし、伝統文化の継承を図る。アーティストの中には、伝統工芸品を継承するため、町の職人に弟子入りする者も出てきている。

協力を発信するパートナーへと共に町の魅力を発信するパートナーへとなっていく。



↑「つむじ」の雑貨ショップに置いてある町民制作の伝統工芸品や生活雑貨
左上の「入山メンバ」と「こんごうり」は、2010年に合併した大倉村の伝統工芸品。職人の高齢化が進む中で、ものづくりの文化をたやぶらぬよう、手間に合わせた適正価格での販売に取り組んでいく。
出典)「つむじ」HP http://tsu-mur-j.com/wp/?page_id=22(2011/3/28参照)



↑山重氏が描くビジョンである「つむじ」の「お祭り広場」「足湯」(下)
「つむじ」で、様々なイベントを開催する「お祭り広場」や足湯を設けているのも、こうした出会いの場とするためである。
出典)「つむじ」HP <http://tsu-mur-j.com/wp/>(2011/3/28参照)

中之条ビエンナーレ実行委員
長/「つっぴ」イベント担当
山重 義夫 氏



「住民とのコミュニケーションを大事に」

Q. 実行委員会の体制についての考えを教えてください。

実行委員会のメンバーに入っている役員職員が、会計や対外的な交渉、窓口対応をしてくれているのは安心感があります。一方で、主にアーティストでメンバー構成しているからこそ、実行力を発揮して、ビエンナーレで来場者を獲得して、取り組みの規模も拡大できていると思います。

今後は、長期的に継続していくことを考えて、実行委員会の内部でも役割分担や協議の体制を整えていきたいと考えています。

Q. 「中之条ビエンナーレ 2011」に向けた課題を教えてください。

2009年までは、実行委員会と住民ボランティアのつながりが希薄でした。立ち上げのメンバーは、町のことをよく知らなかったし、作品の展示で手一杯ということもあって、ボランティアの依頼からシフトの調整まで、全面的に役割に頼っていました。今後は、住民の方々と事前にコミュニケーションをとっていく必要があると考えています。「実行委員会の顔が見えない」ということをなくしていきたいですね。

「クリエイティブシティ」中之条町
を目指して

入内島町長と山重氏が中之条町の将来像として描くのは、「クリエイティブシティ」である。移住するアーティストが出てきている中、アーティストに限らず、デザイナー、クリエイター、建築家等のクリエイティブな人々の移住を促進する。そして、彼らのまちづくりへの参画を促すことで、町の文化や歴史に根ざしたオンラインワンのまちづくりを進め、「クリエイティブシティ」を目指す。

「クリエイティブ（創造性）が新しい経済資源となり、成長の原動力になるのではないかな」というのが、入内島町長の考えである。

また、山重氏は、前述の伝統工芸品のブランド化等を通じて、この町に元々あるものづくりの文化を発信していくことで活性化を図りたいと考えている。

これまでにない新たな成長を目指す町と、町のアイデンティティを大切にし、その魅力を引き出すアーティストが絡めば、まちの新たな価値を生み出すことも夢ではない。

中之条町長
入内島 義夫 氏



「クリエイティブシティは新しい経済資源」

Q. 中之条ビエンナーレで、多くの住民ボランティアの参加を獲得できたのは、なぜでしょうか？

中之条町には、太々神楽と獅子舞が27あるんです。小さな町でこれだけ変身することです。皆ですって羨そうという声が多いと僕らも思いますが、それだけ住民のまとまりがよい地域なのだと思います。住民ボランティアは、客観的にこの町を見ることはできませんが、マスコミ等とありあられることで、自分達がしていることは評価されることなのだからって、協力を強みがついているのではないのでしょうか。

Q. 中之条町の目指す将来像を教えてください。

現在は、物流の結節点がある人集積する力がありますが、次は、クリエイティブシティという資源に人が集積すると考えています。現在、中之条ビエンナーレをはじめとするアートの取り組みの結果、移住するアーティストが出てきています。地方の過疎に悩む小さい町が、クリエイティブシティという新しい経済資源を得ることで、今までとは異なる形で経済成長を上げるチャンスではないかと考えています。

中之条ビエンナーレ
総合ディレクター
山重 義夫 氏



「若者が楽しく住む場所をつくりたい」

Q. 山重さんが目指したい町の姿を教えてください。

今は、高齢者に対する予算がウエイトを占めていて、若者が働いて高齢者を支えていますよね。でも、若者が面白い・楽しいと思うまちづくりをしないと、町から出て行った若者は帰ってこないと思います。高齢者が楽しめる場はたくさんあっても、若者が楽しめる場所はない。ですから、中之条町が、子どもから僕ら30代の若者までが主役になれる「つむじ」をつくることは、とても良いことだと思います。自分達が楽しく住む場所を自分達でつくりたい。そういう思いでがんばっています。

Q. 山重さんにとっての中之条町の魅力とは？

人のおもしろさですね。照れ屋の僕でも、町民の方と立ち話で結構盛り上がりがあります。中之条町は、商店街・賢登地区・温泉街・旧六合村など、場所によって全く違う魅力があります。地域のアイデンティティが色濃く残っている、ひっそりとした「奥地」。その魅力を伝えたいと思って、中之条町HPのトップページをデザインする際、「奥の院 中之条」という言葉を使っています。

トップ > インタビュー > 【VOICE】現代美術の祭典「中之条ビエンナーレ」 中之条町観光協会 会長 田村亮一氏

【VOICE】現代美術の祭典「中之条ビエンナーレ」 中之条町観光協会 会長 田村亮一氏

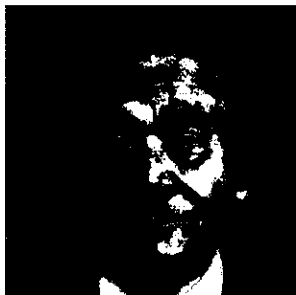
2023年9月14日

シェアする

ポスト

LINEで送る

コメント



中之条町観光協会 会長 田村亮一氏

経済効果大、新風吹き込む

群馬県の北西部、新潟県、長野県と接する山あいに中之条町は位置します。「花と湯の町」をキャッチフレーズとし、「花」は中之条ガーデンズの花々、また、ラムサール条約登録地である芳ヶ平湿地群や野反湖などの雄大な自然を、「湯」は私の出身地であり、上州三名湯にも数えられる四万温泉とともに草津の仕上げ湯として古来より有名な沢渡温泉、そして花敷、尻焼など多様な温泉を有する六合温泉郷などを表しています。

そのほか「文化」や「芸術」の面では国重要無形文化財の白久保のお茶講や鳥追い祭、さらに、今年も9月9日～10月9日に開催され9回目を迎える「中之条ビエンナーレ」なども町の特色の一つと言えます。

ビエンナーレは隔年に開催される現代美術の祭典で、町全体を美術館に見立てて開催されています。里山や温泉といった地域そのものが芸術鑑賞の会場となります。普段、統計による町への来訪者は首都圏のシニア層が多いのですが、ビエンナーレ期間中はインバウンドを含めて若いお客さまの割合も増加するなど、入込客数換算では30万～40万人の来訪者を数える盛況ぶりです。この経済効果は多大で四万温泉に宿泊される年間のお客さま30万人弱と比較しても驚異的な数字と言えるものです。

毎年開催してほしいという要望も内外から聞こえてきますが、「隔年に1カ月だけ」という特別性が価値を高めている一因であることも忘れてはならないと思います。また、ビエンナーレの魅力は地域にとっても作家との交流という点で大きな財産になっています。海外アーティストも含めて町内における長期の創作活動を通じ、この土地の持つ独特の風土・文化から着想を得て、中之条でしか作り得ない作品を手掛けます。

ある作家は「作品は中之条という土地と、私という人間の子どもである」とも言っています。実際にビエンナーレが縁で、移住定住をする作家も多くいらっしゃいます。町内の園児や学生も教育の一環として、ビエンナーレを見学し、時には作家とともに制作活動に関わります。現代美術は敷居が高いと感じる方もおられますが中之条の子どもたちにとっては、身近な存在となっています。

課題も地域における2次交通や集客面での平日と週末との格差の解消などが挙げられますが、地域一丸となって取り組む「中之条ビエンナーレ」は中之条に新しい風を送り続けています。そして、私たち旅館業者にとっても大変ありがたい祭典であり、町民にとっても大切な宝物となっています。

紋別空港からおトクに旅に出よう

ANA
航空券+宿泊 (ANAトラベラーズ ダイナミックパッケージ) の予約がおトク、詳…

広告

ALSOK公式-ITトラブル駆け付け

総合整備保障
会社のPCトラブルでお困りなら【ALSOK/ITレスキュー】24時間365日…

広告

公共プロジェクト提案書（令和7年度予算事業）

令和 6 年 月 日

美瑛町長 角和 浩幸 様

提案者 住所
氏名
連絡先

みんなのまちづくり施策（公共プロジェクト部門）について、次のとおり関係書類を添えて提案します。

1 事業の名称	アライグマ根絶								
2 美瑛町共有ビジョンとの関連性	提案する事業は、どの「美瑛町共有ビジョン」を実現するものですか（複数選択可能） <input type="checkbox"/> 豊かな美しい景観が、農業と観光の架け橋となるまち <input type="checkbox"/> 誰もが自分の可能性をのばせるまち <input checked="" type="checkbox"/> 誰もが健康で共に支え合い、安心して住み続けられるまち <input type="checkbox"/> ライフラインが確保され、災害にまけない強さとしなやかさを備えるまち <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな自然と共生し、持続可能な循環型社会を目指すまち <input type="checkbox"/> 子どもの個性を育み、全力で応援するまち <input checked="" type="checkbox"/> すべての人に居場所と役割があり、希望を持って笑顔で暮らせるまち								
3 地域の課題／事業の目的	① どのような課題を解決する事業か、日々の困りごとの具体例やエピソードを交え記入してください 今年我が家のトウモロコシ、ソルガム、ズッキーナが間もなくおいしくなるという所でアライグマに食べられた。ある日朝起きてみると被害に合っている状況。この夏夜車で出かけた時、親一頭、子5頭が道脇から出てきて驚いた。アライグマが活動する期間 捕獲カゴを常設できていると被害に合う前に捕獲できたと思う。町でも あららこちらにカゴを仕掛けてもらいたい。市町村によっては一頭につきいくらかの捕獲助成金を給付しているところもある。 ② 上記が「美瑛町の地域課題」であると感じられる理由は何ですか？ アライグマが出た時に借り物ではなく、常に捕獲カゴを借りられたらと思う。アライグマの目撃がある地域に常にいくつかカゴを設置し、役場の人か地域の人か毎日点検するようにしたら良いのではと思う。捕獲助成金について考えた時も効果があまりもわからない。								
4 事業の内容 (事業の対象者、実施期間、実施場所などできるだけ詳細に記入してください。)	① 事業の対象者（どこに住む、どんな世代の、誰に向けた事業ですか？） 町内のアライグマで困っている人。町民全員。 ② 実施する場所 各自の自宅周辺、XO周辺。住んでいる各地域。 ③ 実施期間 アライグマの活動（している期間）他市町村から移動しているかも（おかげでアライグマが捕獲せられたらなりましたが毎年繰り返して行く。 ④ 課題の解決に向けて、どのような役割や協力体制が考えられますか？ <table border="1"> <tr> <td><行政></td> <td><町民></td> <td><その他></td> </tr> <tr> <td>希望する人へ捕獲カゴの貸出し 捕獲カゴの設置 捕獲助成金の給付。</td> <td>捕獲カゴの設置と点検。 捕獲されたアライグマの届出。</td> <td></td> </tr> </table>			<行政>	<町民>	<その他>	希望する人へ捕獲カゴの貸出し 捕獲カゴの設置 捕獲助成金の給付。	捕獲カゴの設置と点検。 捕獲されたアライグマの届出。	
<行政>	<町民>	<その他>							
希望する人へ捕獲カゴの貸出し 捕獲カゴの設置 捕獲助成金の給付。	捕獲カゴの設置と点検。 捕獲されたアライグマの届出。								
5 事業の効果・将来像	事業の実施によって、まちがどのように変化するか、どんな未来につながるのかを教えてください。 農業被害がなくなり、元々の動植物が守られ、本来の美瑛の自然が戻り。								

※補足資料（収支予算書、写真、他自治体の事例、パンフレットなど）があれば添付してください。

公共プロジェクト提案書（令和7年度予算事業）

令和6年9月20日

美瑛町長 角和 浩幸 様

提案者 住所
氏名
連絡先

みんなのまちづくり施策（公共プロジェクト部門）について、次のとおり関係書類を添えて提案します。

1 事業の名称	大学進学を希望する町民に対する奨学制度								
2 美瑛町共有ビジョンとの関連性	提案する事業は、どの「美瑛町共有ビジョン」を実現するものですか（複数選択可能） <input type="checkbox"/> 豊かな美しい景観が、農業と観光の架け橋となるまち <input checked="" type="checkbox"/> 誰もが自分の可能性をのばせるまち <input checked="" type="checkbox"/> 誰もが健康で共に支え合い、安心して住み続けられるまち <input type="checkbox"/> ライフラインが確保され、災害にまけない強さとしなやかさを備えるまち <input type="checkbox"/> 豊かな自然と共生し、持続可能な循環型社会を目指すまち <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの個性を育み、全力で応援するまち <input checked="" type="checkbox"/> すべての人に居場所と役割があり、希望を持って笑顔で暮らせるまち								
3 地域の課題／事業の目的	① どのような課題を解決する事業か、日々の困りごとの具体例やエピソードを交え記入してください 町独自の奨学制度がない事を知り残念に思いました。 ② 上記が「美瑛町の地域課題」であると感じられる理由は何ですか？ 大学等に進学を希望する人が学べるための奨学制度がない								
4 事業の内容 (事業の対象者、実施期間、実施場所などできるだけ詳細に記入してください。)	① 事業の対象者（どこに住む、どんな世代の、誰に向けた事業ですか？） 町内に住む大学等の進学を望む人 ② 実施する場所 ③ 実施期間 大学等 入学前と入学後 ④ 課題の解決に向けて、どのような役割や協力体制が考えられますか？ <table border="1"> <tr> <td><行政></td> <td><町民></td> <td><その他></td> </tr> <tr> <td>助成</td> <td>学びをきくめ</td> <td></td> </tr> </table>			<行政>	<町民>	<その他>	助成	学びをきくめ	
<行政>	<町民>	<その他>							
助成	学びをきくめ								
5 事業の効果・将来像	事業の実施によって、まちがどのように変化するか、どんな未来につながるのかを教えてください。 優秀な人材が将来 美瑛に戻ってくる								

※補足資料（収支予算書、写真、他自治体の事例、パンフレットなど）があれば添付してください。

来春に大学等への入学を予定している学生の皆様へ

令和6年度版

給付型奨学金（大学等）のご案内

※世帯年収の目安：590万円以下

大学等への入学を予定する学生を対象に、申込のあった方の中で、世帯状況や成績表の評定等により選考された方に対して奨学金を支給します。

（予算の範囲内のため、支給とならない場合もあります。他の奨学金と併用可能です。）

給付対象

来年度に大学等※1に入学を予定している学生で右の給付要件を全て満たす方

※1：学校教育法に規定する大学（大学院を除く）、高等専門学校（第4、5学年及び専攻科に限る）及び専修学校（専門課程に限る）

給付要件

支給を受ける学生等について 【高校3年生相当】

- ・申請年度の翌年度に大学等に入学し、又は在学する者であること
- ・生計維持者が、申請年の1月1日時点で本市に住所を有していること
- ・旭川市奨学金、入学仕度金の滞納がないこと（生計維持者含む）
- ・市税の滞納がないこと（生計維持者含む）
- ・生計維持者の申請年度分の道府県民税及び市町村民税の税額控除前所得割額の合計が257,500円未満であること
- ・市内若しくは近隣8町※2の高校等又は通信制高校等に在学していること
- ・学業が優秀で性行が善良であること（評定平均値が5段階評価で4.3以上）

※2：上川郡鷹栖町、東神楽町、当麻町、比布町、愛別町、上川町、東川町、美瑛町

区分

支給額

入学準備金
（自宅通学）300,000円
（自宅外通学）500,000円

奨学金※3 年額 100,000円

※3：大学等の第1学年に在学する者は除く

申込・受付期間

令和6年9月2日(月)から10月21日(月)まで
<受付時間> 平日、8時45分から17時15分まで

支給時期：（入学準備金）3月末、（奨学金）6月と12月

申込方法

次の提出書類を子育て助成課まで持参又は郵送してください。

【宛先】〒070-8525 旭川市7条通9丁目48番地 旭川市総合庁舎3階
旭川市子育て支援部 子育て助成課 奨学金担当 宛

※郵送の場合、受付期間内の消印日有効

提出書類

- ① 給付型奨学金（大学等）支給申請書（規則様式第3号）
- ② 入学予定大学等申請書（要綱様式第5号）
- ③ 世帯状況票（要綱様式第8号）
（源泉徴収票や市税等の決定通知書など、扶養家族の人数が確認できる書類を添付してください。）
- ④ 旭川市給付型奨学金（大学等）推薦書（要綱様式第9号）
（在学している高校等に記入を依頼してください。）
- ⑤ 成績証明書
（申請者（学生等）が在学している高校等で交付を受けてください。）
- ⑥ 納税証明書
（市役所総合庁舎3階税制課税2番窓口もしくは各支所にて取得してください。）
両親の場合は、本人含めて3名分必要。窓口で『完納証明』とお伝えください。（代理人申請は、委任状が必要です。）

※①～④の書類は、子育て助成課窓口で配布するほか、市ホームページからも印刷可能です。

※生徒や保護者に旭川市外の住所の方がいる場合は、別途住民票が必要。

※保護者が旭川市外で課税されている場合は、別途課税証明が必要です。

【裏面に続く】

旭川市奨学金（奨育・給付）



この二次元コードから
旭川市の奨学金情報の
ページをご覧ください
ます！

<お問い合わせ>

旭川市子育て支援部子育て助成課 奨学金担当
旭川市7条通9丁目48番地 旭川市総合庁舎3階
電話：0166-25-9107
e-mail：kosodatejosei@city.asahikawa.lg.jp

※中学校、高校等、教育委員会へのお問い合わせは御遠慮ください。

道府県民税及び市町村民税の所得割額（税額控除前）の確認方法

給付要件にある「道府県民税及び市町村民税の税額控除前所得割額」については、市町村が毎年5月に発行する

- ①「給与所得等に係る市民税・道民税・森林環境税 特別徴収税額の決定・変更通知書」、又は6月に発行する
- ②「市民税・道民税・森林環境税 税額決定納税通知書」のいずれかで確認できます。

①「給与所得等に係る市民税・道民税・森林環境税 特別徴収税額の決定・変更通知書」

	6月分		
市民税	7月分	8月分	9月分
道民税	10月分	11月分	12月分
森林環境税	市民税・道民税の④の合計		
所得割額	4月分	5月分	

②「市民税・道民税・森林環境税 税額決定納税通知書」

年度 市民税・道民税・森林環境税 課税明細書(2)

区	分	課税標準額	税率	市民税額	道民税額
総合所得		9			
山林所得					
肉用牛の売却価額					
分		11			
退職一時金					
退職一時金					
長期譲渡					
課税					
株式等の譲渡所得					
(一般分・上場分)					
一市場株式等の配当等					
税					
免					
物					
取					
得					
出					
所					
得					
割					
額					
合					
計					
税					
額					
控					
除					
前					
所					
得					
割					
額					
①					
均					
等					
割					
額					
②					
森					
林					
環					
境					
税					
額					
③					

これらは、旭川市発行の各通知書の抜粋ですが、太枠の数字が要件（257,500円未満）を満たしている場合に限り申込可能です。
 ※ 所得・課税証明書では確認できませんので留意願います。

【よくある質問】

Q1. 申込みや支給にあたって子どもの成績要件はありますか？

A1. 高校等での5段階評定の平均が4.3以上の方を対象としています。

Q2. 我が家には、大学等に進学予定の双子の子どもがいます。入学したら2人とも受給対象になりますか？

A2. 支給要件を満たしていれば、2人とも支給対象となります。

Q3. 給付要件の「高校等又は通信制高校等」の範囲を教えてください。

A3. 公立又は私立高等学校（定時制課程を含む）、国立高等専門学校、通信制の高等学校のほか、高等学校の課程を置く専修学校及び各種学校も含まれます。

Q4. 給付対象の「大学等」の範囲を教えてください。

A4. 学校教育法に規定する大学（大学院を除く）、高等専門学校（第4、5学年及び専攻科に限る）及び専修学校（専門課程に限る）で、修業年数の制限はありません。

Q5. 道府県民税及び市町村民税の所得割額（税額控除前）は何で確認できますか？

A5. 毎年5～6月に市町村が発行する、市民税・道民税・森林環境税特別徴収税額決定通知書、普通徴収の納入通知書に記載していますので、お手元の書類をご確認ください。※対象の場合、必要書類となりますので必ず保管してください。

Q6. アルバイトをしている大学生、年金受給中の祖父母を含めた6人世帯です。所得割額は、大学生の子どものアルバイト代と祖父母の年金も合算するのですか？

A6. 所得割額は、対象となる学生（高校3年生）を実際に養育している保護者等のみの所得により算定しますので、大学生のアルバイト代や祖父母の年金収入は含まれません。なお、夫婦共働きの場合は、それぞれの額を合算した額になります。

Q7. 夫は数年前から市外に単身赴任ですが申込みできますか？

A7. 保護者のどちらか一方の住民登録が、申請年の1月1日に旭川市にあれば申し込むことができます。

Q8. 保護者は旭川市外の町民ですが、子どもは旭川市内の高校に在学中で、市内の祖父母宅から通学しています。祖父を「保護者等」として申込みできますか？

A8. 申請年の1月1日時点で保護者の住民登録が市外にある場合は、支給対象となりません。

Q9. 高等専門学校の在学中ですが、給付型奨学金の対象となりますか？

A9. 高等専門学校の第3学年の方は申請可能です。入学準備金は支給されませんが、第4、5学年において奨学金が支給されます。なお、卒業後に大学等に編入学した場合、大学卒業まで奨学金支給を延長できます。

公共プロジェクト提案書（令和7年度予算事業）

令和 6 年

美瑛町長 角和 浩幸 様

提案者 住 所
氏 名
連絡先

みんなのまちづくり施策（公共プロジェクト部門）について、次のとおり関係書類を添えて提案します。

1 事業の名称	美瑛発電協同組合								
2 美瑛町共有ビジョンとの関連性	提案する事業は、どの「美瑛町共有ビジョン」を実現するものですか（複数選択可能） <input type="checkbox"/> 豊かな美しい景観が、農業と観光の架け橋となるまち <input type="checkbox"/> 誰もが自分の可能性をのばせるまち <input checked="" type="checkbox"/> 誰もが健康で共に支え合い、安心して住み続けられるまち <input checked="" type="checkbox"/> ライフラインが確保され、災害にまけない強さとしなやかさを備えるまち <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな自然と共生し、持続可能な循環型社会を目指すまち <input type="checkbox"/> 子どもの個性を育み、全力で応援するまち <input type="checkbox"/> すべての人に居場所と役割があり、希望を持って笑顔で暮らせるまち								
3 地域の課題／事業の目的	① どのような課題を解決する事業か、日々の困りごとの具体例やエピソードを交え記入してください 電気エネルギーの自給自足。 ② 上記が「美瑛町の地域課題」であると感じられる理由は何ですか？ 新たな産業(仕事)の創製								
4 事業の内容 (事業の対象者、実施期間、実施場所などできるだけ詳細に記入してください。)	① 事業の対象者（どこに住む、どんな世代の、誰に向けた事業ですか？） 町民全員 ② 実施する場所 町内全域 ③ 実施期間 通年 ④ 課題の解決に向けて、どのような役割や協力体制が考えられますか？ <table border="1"> <tr> <td><行政></td> <td><町民></td> <td><その他></td> </tr> <tr> <td>組合立ち上げに力を入れた バックアップ?</td> <td>組合員になり電気を貰う。 ＝発電事業に参加する。</td> <td></td> </tr> </table>			<行政>	<町民>	<その他>	組合立ち上げに力を入れた バックアップ?	組合員になり電気を貰う。 ＝発電事業に参加する。	
<行政>	<町民>	<その他>							
組合立ち上げに力を入れた バックアップ?	組合員になり電気を貰う。 ＝発電事業に参加する。								
5 事業の効果・将来像	事業の実施によって、まちがどのように変化するか、どんな未来につながるのかを教えてください。 誰もが安心して暮らせる新しい、務めたい住み続けたいと思える人が増え、仕事も必要。								

※補足資料（収支予算書、写真、他自治体の事例、パンフレットなど）があれば添付してください。

美瑛発電協同組合

町民による、町民の生活のための、町民の発電事業

美瑛町の景観をこわさないように、遊休地を利用して、
太陽光発電を、あまり広大な面積で、多く作る（メガソーラーは、
景観をこわすおそれがある）美瑛町にはおいていない。
小さな川が、たくさんあるのを利用して、特小水力発電を、
景観をこわさないように、小さな風車を、多く利用した、
風力発電などを、町民の手で、やっていく。

公共プロジェクト提案書（令和7年度予算事業）

令和 6 年 月 日

美瑛町長 角和 浩幸 様

提案者 住 所
氏 名
連絡先

みんなのまちづくり施策（公共プロジェクト部門）について、次のとおり関係書類を添えて提案します。

※別紙に着想・構想を書きましたのでご覧下さい

1 事業の名称	自立型 高齢者 施設の設立	
2 美瑛町共有ビジョンとの関連性	提案する事業は、どの「美瑛町共有ビジョン」を実現するものですか（複数選択可能） <input type="checkbox"/> 豊かな美しい景観が、農業と観光の架け橋となるまち <input checked="" type="checkbox"/> 誰もが自分の可能性をのばせるまち <input checked="" type="checkbox"/> 誰もが健康で共に支え合い、安心して住み続けられるまち <input type="checkbox"/> ライフラインが確保され、災害にまけない強さとしなやかさを備えるまち <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな自然と共生し、持続可能な循環型社会を目指すまち <input type="checkbox"/> 子どもの個性を育み、全力で応援するまち <input checked="" type="checkbox"/> すべての人に居場所と役割があり、希望を持って笑顔で暮らせるまち	
3 地域の課題／事業の目的	① どのような課題を解決する事業か、日々の困りごとの具体例やエピソードを交え記入してください ・高齢者の高齢者は、世話をしてもらおうなどの迷惑を掛けたくてないのが本音です。 ・できるだけ日常の生活を継続するには、どうしたらいいのかを考えると、 ・日々の生活の中での労働、つまり家事を始め、庭の手入れ、野菜作り、動物の世話、大仕事などを無理のない形で続けることが大事です。 ・社会との関わりは必須です。家族、友人、趣味などを通じての他者との交流。そして自身の意見・考えを伝えることも ・自己実現、承認欲求の助けになり豊かな生活を作っていく。 ・それらを解決し楽しく生活を営ませるための施設を備えているのが「高齢者施設」だと思いませんか？ ② 上記が「美瑛町の地域課題」であると感じられる理由は何ですか？ ・高齢者が望む形の施設が「ないかたしなしい」ので。	
4 事業の内容 （事業の対象者、実施期間、実施場所などできるだけ詳細に記入してください。）	① 事業の対象者（どこに住む、どんな世代の、誰に向けた事業ですか？）	
	主に美瑛町内の高齢者及び幼児・学童	
	② 実施する場所	
	閉校校舎・校庭及びその周辺	
③ 実施期間		可能を限り早急に着手し、試行錯誤を重ねて理想に近づけていく
④ 課題の解決に向けて、どのような役割や協力体制が考えられますか？		
<行政>		<町民>
構想への助言、 場の提供、 費用の補助 など		アイデアの提供 活動資金の " 不用品の " 処分等
<その他>		
5 事業の効果・将来像	事業の実施によって、まちがどのように変化するか、どんな未来につながるのかを教えてください。 ・心身共に健康な高齢者の増えていくので、家族の負担は減少していきます。将来への希望、展望が 増えます。	

※補足資料（収支予算書、写真、他自治体の事例、パンフレットなど）があれば添付してください。

※ぜひ、ヒアリングをしていただきたいです。

• 長い年月を生きた高齢者ならではの生活の場を作りたい
それぞれの知識や経験を活かしながら、尊厳を保持して
生活していくことが出来る場である。

• 寮(開)校舎は、その場としての条件を備えている。

例えば

- 音楽室 音楽活動の場
- 美術室 美術 "
- 体育館(講堂) 各種軽運動, 文化活動の発表, 講演+セミナー開催^{など}
- 給食室 食事調理など
- 保健室 体調管理など
- 各教室 学び, 交流の場 及び(将来的に)宿泊の場, 住み(居)の場
- 校庭 農作業, 動物の飼育, 花づくりなど
散歩路広場(安全に徘徊出来るように)

など可能性はいろいろある。

• 準備にかかる費用、運営方法及び運転費用などは、そのやり方によるので
現在の時点では推し測れることは難しい。特に、美珠町の高齢者の中には
土木関係のOB, 介護・看護のOG, 給食作りのOG,
重機会社の経営者……などなど大勢住んでいるのでその方たちの
協力は必須である。

• この事業案は、高齢者が自ら構想を練り上げ、行政の援助や協力を
得て作っていくものである。

• 参考になると思われる事例を紹介する。

①「Open Village」キシタ 2019 仙台市にて落成した ainest.jp
(のまいた) 文化福祉交流施設

②「東神楽大学」2022 開校 働く・学ぶ・遊ぶの複合施設

higashikawa-college.jp